

基本から学ぶ発達障害（神経発達症）

～病気？個性？どちらも違います～

* 日本臨床心理士資格認定協会「短期研修機会(ワークショップ)」 承認番号:W29111 承認期間:2017年7月1日～2022年6月30日

* 特別支援教育士(S.E.N.S.)、特別支援教育士スーパーバイザー[S.E.N.S-SV]更新ポイント認定講座 承認番号:S.E.N.S第1054号

期 間：2021年3月6日(土)～4月2日(金) ※3月20日(土祝)は除く

・水曜日、金曜日、土曜日 } のいずれかのご希望日
・3月7日(日)

※第三希望まで、必ず通信欄にご記入・ご入力ください

受講対象：発達障害児・者に携わる先生方・専門職、行政職、団体職員、ボランティア等

定 員：各回10名 本講座は事前にビデオ収録し、当日講義室で上映する講座となります

(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください。先着順となります。)

受講料：6,000円(税込み)

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

会 場：明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします

東京都豊島区高田3-19-10

JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

*** <企画および講義> *** 宮本 信也 先生：白百合女子大学 副学長 ***

発達障害が関心を集め出した当初、発達障害は病気であるとか、脳障害あるいは脳機能障害であるとか言われたことがあります。発達障害が、医学分野では精神疾患の中に分類されたことや、注意力や認知面などの脳の働きの問題であることが、そうした状況の背景の大きなものと思われまます。でも、ちょっと考えてみましょう。例えば、目が不自由という視覚障害、手足が自由に動かせないという運動障害という状態があります。視覚障害、運動障害を生じる病気があることはあります。しかし、視覚障害や運動障害自体は病気でしょうか。そうではありません。同じように、発達障害も、それを引き起こす病気があることはあります。例えば、脳炎の後に知的障害が残った、脆弱X症候群という染色体異常で自閉症が生じた、などということはありません。しかし、私たちが相談を受ける発達障害のある子どもたちのほとんどは、そうした原因となる病気を持っていません。

では、発達障害は個性でしょうか。個性と言える状態にある人もいることは確かです。でも、発達障害に関する専門機関に来られる人たちは、生活上で自分たちだけではうまく対処できない困難があるからこそ相談に来られるのがほとんどだろうと思います。どうしてよいか分からない問題が生じている状態を個性と呼ぶのは、私は適切ではないように感じます。

では、発達障害とはどのような状態をいうのでしょうか。私は、次のように考えています。それは、『発達障害とは、特定の非定型発達特性を持ち、その特性のために日常生活において自分だけでは適切に対応できないほどの困難を抱えている状態のことである』というものです。この講座では、このような視点に立ち、発達障害の基本から対応までを解説します。 【企画講師 宮本 信也】

【プログラム】

	時 間	テ ー マ	
各 日	13:00～14:00	発達障害とは	<ビデオ講座>
	14:10～15:10	行動問題を主とする発達障害 自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症	<ビデオ講座>
	15:20～16:20	成績問題を主とする発達障害 知的発達症、コミュニケーション症群、 限局性学習症、発達性協調運動症	<ビデオ講座>
	16:30～17:30	発達障害への支援	<ビデオ講座>

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。